

近森リハビリテーション病院 (平成元年12月1日開設) 院長就任 抱負と展望

スタッフの努力に報いたいし、その努力を皆さんに知ってもらいたい



近森リハビリテーション病院 院長 佐々木 ^{まもる} 司

院長就任の抱負と展望についての原稿依頼を受け、正直戸惑いの気持ちを持ちました。

なぜ戸惑ったかについては、院長就任に至った経緯をお話すればお分かりいただけると思います。

昨年の秋も深まった頃、近森理事長からこのお誘いのお話がありました。私の履歴、能力等を考えると「とんでもない」話です。

当然、即お引き受けすることは難しく、暫く考えさせて欲しい旨をお返事致しました。それでも、どうしても出来るとは思えませんでしたので、元院長の栗原先生にご相談したところ、「引き受けて欲しい。自分に出来る援助は惜しまないから」と。そして、『続・救急車とリハビリテーション』が送られてきました。

その一節、「院長の心得」を読み愕然とした思いに囚われました。私には到底出来もしない内容!に思えたのです。気持ちを切り替え、新たな道を進むには、人生の晩年に入った私には不可能と思えたのです。

ただ、この本をよく読むと、近森リハビリテーション病院が偉大な歴代院長の力だけで今日のようなリハ世界に名だたる病院を作りあげたわけではないことが察せられました。一緒に嵐に立ち向かい、夢を実現した仲間たちがいたのです。彼らは現在もリハ病院におり、たゆまない努力を重ねて来ているのです。彼らを信頼し、彼らの言葉に真摯に耳を傾け、最後の決断を下し、その責任を取ることがお前の仕事だと、栗原先生はきっぱりと言ったのでしょ。

近森理事長のお誘いの言葉「ふわっとスタッフのそばにただけでよい」も、栗原先生の言葉と同じ意味であり、「どっしり構えている」ことだと解釈しました。

敢えて「抱負と展望」をいうとすれば、「彼らの努力に報い、それを多くの人達に知ってもらうこと」とお答するしかないのが現状です。それすら私にとっては困難な仕事には思えますが、彼等に啓発され、成長し、数年後にすばらしい「抱負と展望」を語る時が来れば幸いです。

温泉



1月25日に高知市介良で行なわれた高知市消防局救助訓練において、DMAT[®]の装備で
※ DMATは2面に掲載

近森 正幸

1月29、30日の二日間、日本静脈経腸栄養学会のランチョンセミナーでの講演のため鹿児島島の城山観光ホテルに宿泊した。ここの温泉のお湯は滑らかで素晴らしく、噴煙をあげる桜島の勇姿を露天風呂から堪能することができた。

その翌々週、講演で松山へ行った折、道後温泉本館二階の霊の湯に入る機会があった。この建物は国の重要文化財になっていて、「千と千尋の神隠し」に登場するあの「油屋」のモデルにもなった。とはいえミーハー的な宣伝をしていないのがいいし、建物の古さと相まってしっとりとし

た趣がある。

たまたま、この二回の温泉行に挟まれた2月上旬、自宅の風呂の工事が始まってしまったため、三翠園ホテルの温泉にたびたびお世話になっている。ここがなかなかいい。町中であって散歩の途中や帰宅前に気軽に入れるし、少々塩っぽいが泉質もよく、いつまでもぽかぽかとしてよく眠れる。広々としてなによりも客が少ないから、目の前の鏡川や筆山の眺めを温泉に入りながら独り占めできる。

入浴料は900円とちょっと高めだが、桜島のような派手さはないにしても、こんな風情のある風景を独り占めできる料金だと思えば、それほど高くはない。しかも高齢者だと600円で回数券もあるので、いっそうお得感が増す。

高知では珍しく源泉48℃の高温泉だから、もう少しアピールして観光の目玉や地元の人たちの憩いの場になればと思う。たまに行く町中の温泉もまたおつなものである。

理事長・ちかもり まさゆき

DMAT (Disaster Medical Assistance Team 災害派遣医療チーム) について

災害 医療の 援助 チーム



1月25日に行なわれた高知市消防局救助訓練で、梯子を利用した2階から進入の現場医療活動を行なう近森病院DMATチームの様子

DMATはDisaster Medical Assistance Teamの頭文字をとったものであり、日本語では「災害派遣医療チーム」と訳されます。

緊急性の高い傷病者を救うため、主に**災害発生後48時間の急性期医療を行なう**ことを目的としており、最近の事例では、新潟県中越沖地震、岩手・宮城内陸地震における現場医療活動・病院支援や、洞爺湖サミットでの現地医療対応などを行なっています。

DMATの特徴は、複数のチームが集まった際に、**統括を中心に組織だった活動を行なう**ことにあり、その活動は、現地医療活動・病院支援・自衛隊航空機による搬送（広域医療搬送）・情報収集・メディカルコントロールなど多岐にわたります。

東京・神戸で開催される4日間の隊員養成研修を修了すると厚生労働省医政局指導課から認定されます。**医師・看護師・調整員(事務担当)5名を1チーム**としており、現在、日本全国の災害拠点病院・救命救急センターを中心として550チームが養成研修を修了しています。**当院には07年4月から3チーム16名のDMAT隊員**がいます。

当院のDMATは、現在までのところ



訓練に参加したメンバー

万が一への備えを常に!

近森病院 ER(救急センター) 科長

井原 則之



整列する近森病院DMAT
見守る近森正幸院長



当日の訓練で、締めめの挨拶に立つ、訓練のアドバイザーを務めた井原則之のER科長

出勤まで至ったことはありませんが、中越沖地震や岩手・宮城内陸地震、那覇空港の航空機炎上事故、高知県内における何件かの硫化水素中毒事故で出勤準備・待機を行なっています。必要な際には即時対応が出来るように初動のスピードを高める努力と、訓練を通じて経験を高める努力をしております。

高知県内でも災害に関連した訓練は数多く、2009年1月25日(日)には高知市介良の県営住宅解体現場を利用して、**高知市消防局救助訓練**が開催されました。当院DMATも同訓練に参加



訓練ではこんな場面も!

し、レスキュー隊・ポンプ隊・救急隊をはじめ、高知医療センター・高知赤十字病院・愛宕病院の各DMAT・医療救護班との連携活動を行ないました。梯子を利用して2階から進入しての現場医療活動をはじめ、トリアージ(治療の優先順位)・現場救護所などにおける活動や現場医療班指揮所などを訓練を通じて学んでいます。

災害は起きないことがいざばんです、1年に何回かは国内で災害が発生しているのが現実です。万が一発生してしまった場合に最大限の力を発揮できるよう、知識と技術を高めていきたいと思っています。

聴診器と私

一つの架け橋

近森病院 言語療法科 言語聴覚士



矢野 陽子

聴診器を使い始めたのは、7年前、近森リハビリテーション病院に入職してからのことです。

初めて聞いた音は血圧を測るときの血管音でした。次いで呼吸音、嚙下音と必要に迫られ聞くようになりました。

初めて自分の聴診器を持ったのは2年目の頃、先輩のアドバイスもあり、**頸部聴診で嚙下の阻害にならないように**と、小児用の聴診器を購入しました。しかし、豚に真珠のような状態で良い聴診器を持っていても、呼吸音や嚙下音の正常・異常の違い、異常時の対応の仕方もよく分からず、患者さんには迷惑だったと思いますが、自分の音と何度も聞き比べさせてもらったり、看護師さん、言語聴覚士の先輩、他のリハビリテーションスタッフ、先生などを呼び止めて教えていただきました。7年目の現在でも、まだまだ修業中です。

こうして改めて振り返ってみると、私にとって聴診器とは、数々の患者さんやスタッフの方々とのつながりを深める、一つの架け橋だったのかも知れないなあと考えてきます。

第57回
地域医療講演会

医薬品副作用の毒性学的アプローチ

鳥居薬品常勤顧問・薬学博士 松本一彦先生をお招きして、2009年1月31日(金)に、高知パレスホテルにおいて

近森病院第二分院
副院長 宮崎 洋一

▶ 会場ようす
撮影/山崎啓嗣 (診療支援部)



▲左から進行を務めた宮崎副院長、講師の松本先生、この講演会を企画した入江博之心臓血管外科部長

毒性学とは

もともと松本先生は、近森病院で行なっている医療統計セミナーの講師を務められていたのが最初だったのですが、本業は《毒性学》という初めて耳にする分野のエキスパートであり、薬物の毒性を評価するために統計学を勉強され、最近はおちこちで生物統計学・医療統計学の講義をされているとのことでした。

《毒性学》というのは最近構築されつつある学問のようで、簡単に言えば「薬物の毒性・副作用に焦点を合わせた薬

理学」という印象でしょうか。

講演に至る経緯

薬物の副作用については社会全体が敏感になっているとも言え、患者さんもインターネットなどでよく調べており、下手をすれば臨床家以上に詳しく(しかし残念ながら断片的に)知っておられる状況にあって、薬物の副作用をプロとして、より科学的に理解することに役立つのではということで、今回の講演をお願いすることになった次第です。

無実の立証の筋書きの如く…

当日は、松本先生が研究者として関わってこられた肝炎・腎炎・アナフィラキシー(アレルギーのうちで、とくに激しく出る症状)起因薬剤のことについて、これまでの研究データを多数提示され、説明して下さいました。

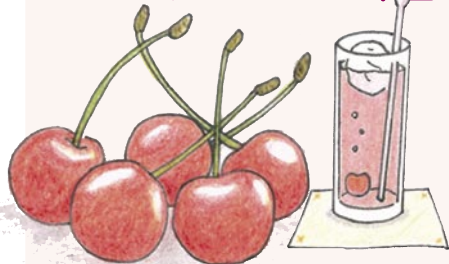
ある薬物が副作用をおこしているか検証する経緯とか、副作用の真の原因薬物をつきとめていく過程は、サスペンスドラマの犯人捜し、または無実の立証をしていく筋書きととてもよく似ていて、大変エキサイティングで、我々のように臨床をしている者にはなかなか味わえない基礎研究の醍醐味がリアルに伝わってきました。

また将来的には病院ごとに採用されている薬物のチップを作って、それに患者さんの血液を塗布したら、すぐにその場でアナフィラキシーを引き起こす薬剤が判断可能となるという夢のようなことが実現可能であり、今後それに着手したいという話で締めくくられました。

次には『毒性学概論』の講義を

生命現象がどんどん解明されつつある現代にあっては、基礎医学あるいは生物学を学ぶことで臨床の幅と奥行きが深まると私は信じておりますので、もう一度機会を作っていただき、松本先生に『毒性学概論』の講義をしていただいて、副作用の全体的・体系的理解の理論的枠組みを学んで、日々の臨床に生かせたらと考えております。

薬用酒アラカルト[®] さくらんぼ酒



かわいい小粒のさくらんぼ。今回の材料は、なんと、理事長宅の屋上で実ったもので、鳥の襲来の前に収穫された貴重なものです。

<材料> 密閉容器 1.8リットル分。さくらんぼ 500g。氷砂糖 200g。ホワイトリカー 900ml
<作り方>

- ① さくらんぼをきれいに洗い、水気を拭き取りながら軸を取る。
- ② 氷砂糖と交互に容器に入れ、ホワイトリカーを注ぐ。
- ③ 3ヵ月ほどで飲めるようになる。

さくらんぼ酒は、ミネラルやビタミン成分をバランスよく含んでいるので、疲労回復や食欲増進、血行促進、美肌、疲れ目などに効果があるといわれています。

漬け込んでから約6ヵ月後の『ひろっぱ』編集委員による試飲会での感想は、「色がかわいい」、「甘くて香りがよい」、「食前酒にすると食欲が増しそう」、「漬かっている実もほんのり甘くておいしい」など、大好評! また、「もう少し甘さを抑えてもいいかも」というご意見もいただき、さっぱりしたお酒が好きの方は氷砂糖の量を少なめに作ってみるのもいいと思います。

チェリーピンクの甘くてかわいなお酒、グラスに実を一粒入れて、おしゃれに楽しむことができます。ロックでも、炭酸で割ってもおいしいです。ぜひお試しください。

(薬剤部 嶋崎 ユリカ)

● 3月の歳時記 ●

桃

第二分院 4階病棟

岡本 しのぶ

3月の花といえば桃の花、3月3日の「桃の節句(ひな祭り)」を思い浮かべます。ひな人形の隣には桃の花が添えられていますが、桃には魔除けの力があると考えられていたことから、節句を祝うのにふさわしい花とされ、「桃の節句」と呼ばれるようになったそうです。桃の花は、縄文時代から栽培されているそうです。

種類は、バラ科。開花時期:

早咲き 3/15頃~4月末頃。遅咲き 4/10頃~4月末頃。ひな祭り用には温室内で育てたものが使われるそうです。

子どもがいなくても、子どもが大きくなっても、男の子でも、自分のお気に入りのひな人形を購入して(もしくはプレゼントされ)、飾るのもいいのではないのでしょうか? 今は、木彫りや陶製のとってもすてきでお手頃なものがあります。

画 千光士 可苗



ケアのワンポイントアドバイス 急性期口腔ケア

脳神経外科病棟で

近森病院 歯科衛生士 北川 弥生



ICUブラシ

口腔内を洗う洗口液

▲ ICUブラシはくるリーナよりもブラシ部分が小さく、挿管している方や開口困難な方のお口のケアがしやすい

脳血管疾患で入院された患者さんの中には、後遺症で口から食べられなくなる方が非常に増えています。摂食・嚥下障害によって起こる誤嚥性肺炎の方も、冬場になって急に増えてきました。

歯科衛生士は口腔内の環境を整え、誤嚥性肺炎の予防のために口腔ケア（痰の管理）と、ケア方法の伝達を行っています。今回は脳神経外科病棟で口腔内の汚染が強く、ケアの実施を強化した例を紹介します。

この方は入院当初から経腸栄養で右半身麻痺、発語もなく、ベッド上全介助で口腔ケアを行ないました。粘稠痰が多く、白色舌苔も多量に付着し、歯はほぼ残っていましたが、上の前歯4本は歯根の状態です。歯周病、排膿、口臭がありました。

まずは口腔内の状態に合わせてご家族にケアに役立つ物品（ICUブラシ・柔らかい歯ブラシ・口腔内を洗う洗口液）を揃えてもらいました。

毎朝の口腔ケアは歯科衛生士が担当しました。口蓋（上あご）・舌上に張り付いた粘稠痰で窒息してしまわないよう、ICUブラシで奥からかき出すようにブラッシング。歯ブラシで残存歯と舌をブラッシングし、とくに歯周病の見られる上の前歯部歯肉からは排膿（溜まった膿）があったため、抗菌作用のある洗口液をコップの水に薄めて、歯肉マッサージを行ないました。

日中は看護師さんが頻回に吸引、同じ要領で口腔ケアを実施、リハビリスタッフも訓練中に口腔ケアとアイス

マッサージ（大型綿棒を凍らせて冷感刺激を咽の奥に与え覚醒を促す方法）を施行しました。

2週間後、歯肉からの排膿はまだ少しありましたが、口腔内への痰付着・舌苔は減少、意識レベルの改善も見られ、歯ブラシを口へ持っていくと口を開けてくれるようになりました。急性期では口腔ケアが必要な方が大勢いらっしゃいます。より多くの患者さんの肺炎予防、口から食べられるための口腔ケアを続けていきたいと思えます。

2008年度職員旅行

●花の都・パリへ その5

四泊六日（08.12.04～09と09.01.14～19）で



フランス革命100周年記念に、1889年パリで開かれた万国博覧会のために建造された、パリ名物エッフェル塔を背景に。「日本晴れ」の空の下、お揃いで



わ〜い、ワインで乾〜杯



ヨーロッパ最大級の百貨店ギャラリー・ラファイエットも由緒正しきパリ名物

新シリーズ★近森会交友録エッセイ

近森の精神科スタッフの皆さんへ

高知女子大学非常勤講師 畦地 博子

高知女子大学卒業後、芸西病院で勤務。退職後カルフォルニア大学サンフランシスコ校の修士課程卒業。高知女子大学に講師として勤務。以来、近森会とは研修の講師としてずっと関わってくださっている。高知女子大を退職し、博士後期課程に入学、数年前に卒業。現在は、非常勤講師として高知女子大学で勤務の傍ら、子育てに奮闘中。



名だたる高知女子大学の有名人先輩が集う近森病院に、女子大の精神科の看護実習担当教員としておじゃましたのをご縁に、研修会の講師などでお邪魔し続け10年余り……、今つくづく感じているのが、いつも変わらぬ、近森の精神科看護師さんの癒しの力です。

ここ10年で、精神科医療は劇的に変化しました。つい最近の研修会で、「昔は何年も入院治療をされている患者さんもいた」という話がでたとき、参加者の“ひーふー”しかその当時のことを知らないという事実に遭遇しました。ついに私も歴史を語る歳になったかと愕然とすると同時に、いつも精神科医療の最先端を担って変化し続けてきた近森病院の役割の重さをヒシヒシと感じました。

しかし、変化し続けながらも、なお人の心を癒し続ける看護師さんたち。研修会に参加するようになって、そのために看護師さんたちが影でどのくらい努力し続けているか、ちょっとわかったような気がしています。「看護の王道を実践することにこそ、裏で血の滲むような努力が必要」。これは訪問看護ステーションラポールちかまりの看護師さんの名言なのですが、まさにそれを実践されているのが近森病院の看護師さんなのだと思います。これからも、変化し続けながら、大切なものは変わらない、そんな近森であって欲しい。私もそんな近森病院に癒しを求めてお邪魔し続けたいと思っています。

新シリーズ●近森会グループが日頃お世話になっている県内外の方々から、エッセイを寄せていただくコーナーです。どんなお話が展開されますやら。読者の皆さまもぜひお楽しみください！（ひろつば編集室）

さっぱりとした春の天婦羅はいかが

臨床栄養部 管理栄養士

五十嵐久実 高井宏美 内山里美

天婦羅「天賀」(=高知市大川筋二丁目・洞ヶ島公園の西)へ、春のコース料理を、入江博之心臓血管外科部長と私たち3人で、エネルギー計算を兼ねた食事会に行ってきました。春のコースは、タラの芽やふきのとうといった春の食材をはじめ、「行者ニンニク」や「こごみ」など地元の人でさえ食べる機会の少なそうな山菜(私たちは初めてでした)が使われ、計11種の天婦羅メインのコースです。

食材に衣をつけ、揚げるという一連の動作を一部始終目の前で見ることができました。食材により揚げる時間や温度を微妙に調整し、一つ一つとても丁寧に扱われていました。何よりも驚いたのは、衣の原料となる小麦粉の分量が少ないことです。そのため揚げあがりの衣がとても薄く、油で揚げているのにさっぱり感があり、またサクツという音や食感は素晴らしいものでした。



ふきのとう



天井

天婦羅に、天井か天茶(ご飯に天婦羅をのせた茶漬け、どちらかを選べます)と、サラダ、デザートまで付きます。

天婦羅はエネルギーが高い印象がありますが、衣が薄く油の量が半分となりエネルギーが抑えられ、天井コース910kcal、天茶なら790kcalでした。食物繊維は不足しがちなのですが、野菜がしっかり使われているため両コースとも約5gで、成人女性が1日に必要な量の3分の1ほどが摂れます。ぜひ皆さんもこの「サクツ」を味わってみてください。



五十嵐

高井

内山

新シリーズ♥♥♥ 管理部長の
こだわり ヘルシー美食 4

ときどき無性に食べたくなるものがある。その一つがハンバーグである。学生食堂で食べた冷えたものや、街の洋食屋の鉄板でジュージュードミグラスソースが焦げたヤツを思い出す。ハンバーグ定食。懐かしい味である。そんなわけで今回は



川添 昇

定番

ハンバーグステーキ



画 臨床栄養部 科長 吉田 妃佐

〈材料と作り方〉①タマネギ1/2個とニンニク2片をみじん切りにしてフライパンでいためさましておく。②牛ひき肉2パック(250gぐらいか)、卵黄1個、パン粉適宜、牛乳大さじ2、ナツメグ適宜、塩・コショウ③①と②を混ぜ合わせてよくこね、1/4ずつハンバーグの形に整え冷蔵庫で1時間ほど寝かせる。④デミグラスソース(ウスターソース・トマトケチャップ・トマトピューレ各大さじ2・バルサミコ酢小さじ1)の材料を合わせておく。⑤③をオリーブオイルをしいたフライパンで焼き、余ったスペースに目玉焼きを2個作る(白身が固まる程度でよい)⑥焼き上がった後のフライパンで④に火を通してソースも完成。

〈食べ方〉熱々のハンバーグにデミグラスソースをかけ目玉焼きの黄身を崩してミックスしながら食べ進む。「タマネギの甘みとニンニクの旨味が効いている」「お肉の何とジューシーなことか」などと一人ブツブツ言いながら、スペインあたりのテーブルワインをグビリと呑ともう至福の極みの世界が出現する。

ここで、忘れてならないのが野菜。甘酢とT設計事務所長からいただいた柚子とオリーブオイル、塩コショウに漬けた人参、ブロッコリー、キュウリ、セロリなどを乱切りしたものをポリポリと噛みながら食すと「栄養学的にもgood!」と、左上の記事の内山管理栄養士からも誉められるに違いない。

第58回地域医療講演会のお知らせ

演題 「質の高い

心臓大血管手術の実践と工夫」

講師 札幌医科大学胸部心臓血管外科教授 樋上 哲哉先生

日時 平成21年4月3日(金)18:30～

会場 高知新阪急ホテル 入場無料

リレーエッセイ



家電 やはり釜…

企画情報室 竹内 淳哉

♪あったかご飯が待っている～♪



皆さんは家電にこだわりを持っていますか。1週間に何回ぐらい家電を物色しに店にいけますか。なにを隠そう私は時間が許す限り何回でも何時間でも足を運んでしまうぐらい家電コーナーにはお世話になっています。

そもそも、私の家電好きはどこから始まったのだろうか。ふと考えてみると……2004年にキッチン三種の神器として「食器洗乾燥機」「IHクッキングヒーター」「生ゴミ処理機」を松下電器産業が提唱したときからではないだろうかと思います。食べるのは好きだけ後片付けができない私に食器洗乾燥機、せっかちな私に瞬く間にお湯を沸かしてくれるIHクッキングヒーター、料理をするのはいいがゴミ出しをしない私に生ゴミ処理

機、彼らがいつも支えてくれました。なんて素敵家電なんだろうと思ったものでした、どこかからの回し者ではありませんよ(笑)。

そんな私がいま狙いをつけているのが「炊飯器」です。世の家電ブームからはやや遅れております。おすすめ機能として、蒸気回収システムにより蒸気を出さない蒸気レスや四季の変化による炊きあがりを調整する四季炊きなどなど様々な機能が目白押しです。しかしながら、最終判断はやはり釜である。土鍋釜・本炭釜・純銅釜・なんとダイヤモンド加工の釜まで揃っています。いやあ、奥が深いですね。まあ、たとえ製品を決めても我が家の財務大臣の決裁をもらう大仕事があります。

2009年1月24日～25日、神戸で第12回目を迎えた全国訪問リハビリテーション研究会が開催され、近森会からも参加した。

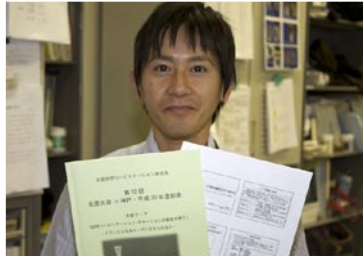
訪問リハの内容の標準化

訪問リハビリテーション 理学療法士
平井 貴雄

二日間にわたり一般演題が行われ、盛りだくさんの内容で、各地域の訪問リハの現状や取り組みについて知ることができました。各事業所ともに苦労しているところは同じであり、とくに情報交換の難しさを改めて痛感しました。チームアプローチを行うためには、日々の電話や確実な担当者会への参加で情報交換を行うことが重要であると再認識しました。

特別講演は初台リハビリテーション病院院長の石川誠先生より『訪問リハの現状と＝介護報酬の改定に伴う今後の課題について』という演題で、分かり易い内容のご講演をいただきました。

そのなかでとくに印象深かったのは、訪問リハを提供する事業所・スタッフが不十分であり、現状として訪問リハの認知度は低い傾向にあるようです。長期にわたり漠然とした訪問リハの介入が続いたり、スタッフにより内容が異なるなど一定してない等の問



当日の学会誌と、石川誠先生の講演資料を持って

題を指摘されていました。今後訪問リハの内容を標準化するためには、現場で働くスタッフ全員が生活機能の改善といった目的をきちんと理解したうえで、各個人がスキルアップを図っていくよう研鑽を積む必要があるとのことでした。

学会後の懇親会では札幌や茨城の訪問リハスタッフと意見交換を行うことができ、私にとって良い刺激となりました。

また、PT・OT・STと職種に関係なくアットホームな時間を過ごすことができました。

訪問経験1年では、他の事業所のスタッフから見ればまだまだ新人の私ですが、今後とも近森会の訪問リハを盛り上げていきたいと思えます。

新医療安全シリーズ ③

区切りの春に…

近森病院医療安全担当看護師長 青木 千利



思い出してみると、かれこれ10年。当院に医療安全委員会が発足したあの時を思い出す。理事長の一声で医療安全委員長に山崎正博神経内科部長が決まった。規約ができ、指針が少しずつ増え、13人のメンバーが今では25名の大所帯。

5年前の退職で、赤い表紙の『医療安全マニュアル』から卒業したはずが、Uターンして3年が経過した。ストレスで逃げた委員会だったはずが、こともあろうに専従看護師とは「驚き・桃の木・山椒の木」である。不甲斐無い私を多くの皆さんが助けて下さり感謝の気持ちでいっぱいである。

春が来てこのたび、異動が決まった。書棚や机を整理しながら“5S”を唱えている。整理とは、不要なものを廃棄し必要な物を残すこと。整頓とは必要な物を取り出しやすい状態にすること。清潔とは……ああ何て不要なものに埋もれていたことか。

区切りの春はすぐそこに。新しくなった医療安全委員会が発展していきますようにと祈りながら、私の頁を閉めさせていただきます。ありがとうございました。

看護部

キラリと光る看護 その46

シニア (senior) 師長と病棟師長の
2名師長・2名主任配置へ

丸ごと受け止めて 対応したい



看護部長 梶原 和歌

3月は卒業の季節。4月はまた多くの新卒者を迎えることができ感謝している。

米国テキサス州ヒューストンにある「アンダーソンがんセンター」は州立病院だが、480床に対して17,000人の職員が配置されているという話をある講演会で伺った。

1床あたり35.4人で、わが近森会グループは722床に対して1,495

人、1床あたり2人である。命の重さと病の苦痛から開放されたいという共通の願いに、限られた原資の中でどう対応したら良いのだろうか。

患者さんや家族のニーズを背中で感じるのではなく、丸ごと受け止めて対応できる成熟した看護チームでありたい。

近森病院では、3月から1単位の病棟に、シニア (senior) 師長と病棟師長の2名師長・2名主任をおくこ

とにした。療養・治療上の種々の説明責任を果たしたい。プライバシーを大切にする倫理的感受性を高めたい。何よりもやさしく笑顔で謙虚に対応できるチームづくりを目指したいと考えている。

いちばん頑張ってくれているスタッフにとっては身近に senior (先輩の・上席の) 師長ができるので今まで以上に相談してほしい。ユニフォームも臨床で働きやすい機能的な楽しいデザインに変更予定である。

2008年8月末に出された日本学術会議の提言「看護職の役割拡大が安全と安心の医療を支える」に応えて、看護職の役割拡大の可能性が検討されているなか、専門・認定看護師をめざして新たなチャレンジを予定している数名の旅立ちをも期待して送りたいと思う。

看護部長塾で「質の高い看護師 育成研修」の報告会を開催

2009年2月3日

この研修は、看護師が、**癌および糖尿病の看護の実践モデル**となり、組織における癌と糖尿病看護の質の向上を推進する役割を担い、その実践知を自ら高めていくよう期待されたもので、今年度初めて実施されました。近森会からは5名の看護師が受講し、看護部長塾で報告されたので、その内容を要約し、読者の皆さんにも**成果の一端をここにご報告**します。

癌の最新治療と専門看護の 40日研修

新館3階東病棟 師長
川久保 和子



病院実習では一人の癌患者さんとじっくり関わり、意思決定の支援、精神的な苦痛、告知など様々な問題を考えることができました。一人の患者を全人的に見るために、認定看護師や専門看護師、緩和ケアチームがどんな役割を果たすかも教えられました。さらに、患者の一番身近に位置する看護師には患者をトータルに見て評価し、その問題となるところに関係職種に関わってもらいながら解決していく調整役としての役割があることも改めて感じました。

訪問看護の実習では、患者さんやご家族にとって、また看護する醍醐味からしてもやはり、「在宅は素晴らしい」としみじみ思いました。サービスの調整や緊急時のフォロー体制で、在宅の不安を軽減し、やはり住み慣れた自宅での生活に向けて積極的に勤めていきたいと決意を新たにしました。

糖尿病患者の自己管理能力 向上に向けての関わり～食事療法の知識習得を試みて

オルソリハ病院6階病棟 筒井 ますみ

糖尿病治療の目的は、合併症を予防しこれまでと変わらないQOLを維持することです。そのためには自らが日常生活を管理し血糖コントロールしていく必要があるが、糖尿病は自覚症状がないため、最初は積極的に食事療法や運動療法に取り組んでも日々の忙しさや気の緩みから徐々に自制心が利かなくなり血糖コントロール不良となる場合が多くみられます。

今回の研修では血糖コントロールが不良となり、再度教育入院した事例を受け持ちました。糖尿病教室に参加し、これまでの生活を振り返りながら自己管理に向けて一緒に考え検討し指導する機会が持てたことは幸いでした。

糖尿病は一生付き合っていかなければいけない病気ですが、糖尿病を理解し正しいセルフケアを行なうことで合併症が予防でき、普通の人と変わらない生活を送ることができること、さらに正しい知

識を習得し深めたことで、自ら問題に付き改善策をたてること、これらを患者さんと共に経験できた点は貴重でした。



2月3日の報告会のような様子(管理棟5階会議室)

老年期にある糖尿病性腎症 患者の一事例 ～感情・意欲面に着目して

新館3階東病棟 主任 太田垣 日出美

糖尿病の病態、薬物療法などの基礎知識をはじめ、基本に戻り知識の習得に努めました。2型糖尿病は生活習慣病の典型であり、境界型から糖尿病への進行を予防する一番有効な方法は生活習慣の改善です。しかし生活習慣を修正するのは簡単ではなく、ご家族の存在と我々医療従事者の手助けが重要な位置を占めると実感。支援の基本は食事療法と運動療法へのアプローチの充実だと改めて感じました。

研修で自身の視点が大きく変化したのはフットケアについての認識。幸い、近森会はフットケアに積極的に取り組み、2008年11月から認定施設として許可されています。糖尿病の神経症状は置き去りになりがちですが、初期に進行する大事な症状だと認識し、現場においては患者さんの足に注目して欲しい。「この足変だな……」と思ったら糖尿病サポートチームにご相談を。近森会はチーム医療が確立しており、それは大きな強みです。研修を受けた私達も何かしらお手伝いできると思います。そして、糖尿病専門療法士に挑戦することが私たちの当面の目標かと考えています。

糖尿病患者の自己管理に向けての援助

～壮年期女性患者への関わり

近森病院 内科外来 田中 美和

「わかってはいるけどセルフケアに向き合えなくなった」糖尿病患者さんと向き合うとき、その時点の患者だけを見るのではなく、その患者さんが今までどのような経験をしてきたかに目を向ける必

要があります。今回は、糖尿病についての知識は持ちつつも生活パターンの変化などにより療養行動が行えなくなり、血糖コントロール不良で2回の教育入院となった患者さんを担当しました。休息と精査目的の入院で、知識もあり療養の必要性も理解しているが行動できない患者さんに、教育入院バスでの治療経過を見ながら、知識の再確認を行ない、必要時の指導と援助を考えていくように努めました。

色々な療養方法を提案するのではなく、患者さんの症状軽減とフットケアの実施、糖尿病教室やリハビリへの一緒に参加などコミュニケーションを図ることで、思いを知ることに心を砕きました。

今回、もっとも適した援助方法は何かを見出すために、それを考えるきっかけを掴めたことは大きな成果でした。



研修修了証書を持って、後列の左が筒井ますみ(オルソリハ6階病棟)、右が田中美和(内科外来)。前列の左が太田垣日出美(近森病院3階東病棟主任)、右に中島久美(近森病院第二分院3階病棟師長)。敬称略

嘔吐を繰り返す、コントロール不良の糖尿病患者への援助

第二分院3階病棟 師長 中島 久美

糖尿病は自己管理が必要な疾患であるが、患者さん自身が自立的に意識して糖尿病治療に取り組もうとしている人は少ないように感じられる。さらに自己管理の必要性を頭で理解していても、実行が難しいのは糖尿病に対する複雑な思いなど心理的な要因も大きいと考える。

今回、自己管理ができず血糖コントロール不良で入院しているにもかかわらず、嘔吐を繰り返す、インスリン導入ができない患者さんを受け持った。糖尿病について楽観的なことを言う患者さんに対し積極的に傾聴して関わることにより患者さん自身が語ることができるようになった。受容的な態度で今の問題点を導き目標を設定し具体策を考えてもらうことができれば、自己管理能力が高まり糖尿病コントロールにつながっていくことがわかった。精神科看護と糖尿病看護がつながる部分が多く、今回の研修を生かしていきたいと思う。

わたしのこの二枚 結婚式 新館6階西病棟 田岡 誠美

私事ですが、2008年12月20日に結婚しました。
 実は…挙式の数日前から右足親指の爪のサイドが腫み、いつか治ると放置していましたが痛みが増し、ついに当院外科で切開処置しました。(上司の先生や薬局に連絡し、最善の方法を考えてくださった小田先生、その節は大変お世話になりました)。ハプニングを乗り越え、大きめのハイヒールを履き、無事式は終了しました。忙しく日々準備した割にはあっという間に終わってしまい、今は少し寂しい…かな？
 馬子にも衣装とはよく言ったもので、腕の良い美容師さんに着つけてもらい、いっちょ前に花嫁さんになりました。美容師さんに聞きましたが、高知のブライダルメイクはレベルが高いそうです。これから結婚を考えている方も、既婚者でお式を挙げられてない方も、ぜひ高知で結婚式を挙げてみて下さい。(上は弟と。下は式に臨む前の新郎新婦です♥)。



図書室便り 《2009年1月受入分》

- ・イラストレイテッド泌尿器科手術 図説で覚える術式とチェックポイント/加藤晴朗
 - ・専門医のための精神科臨床リュミエール 5統合失調症の早期診断と早期介入/水野雅文(責任編集)
 - ・緩和ケアマニュアル 第5版/淀川キリスト病院ホスピス(編集)
 - ・よくわかる臨床心臓電気生理 2版/沖重薫(編著)
 - ・マグネット・ホスピタル 磁石のように看護師をひきつける病院づくり/桑原美弥子
 - ・新しい人事戦略 ワークライフバランス 考え方と導入法/小室淑恵
 - ・第39回 日本看護学会論文集(看護総合・精神看護)/日本看護協会(編集)
- 《寄贈本》
- ・病棟看護師が実践する地域医療連携の現状と連携促進要因-病棟看護師の育成を目指して-/森本志保

- ・新・医学ユーモア辞典/長谷川榮一
 - ・血圧をいかに測るか-日米欧血圧測定ガイドライン集-/今井潤(監修)
 - ・バルプロ酸ナトリウムの副作用について改訂第3版/山内俊雄
- 《別冊・増刊号》
- ・看護学雑誌 別冊 JIN SPECIAL ステップアップ循環器ケア/神田孝一(編集)
 - ・臨床栄養別冊 新調理システム おいしい・あんしんレシピ集/土江節子(編集)
 - ・月刊林 Technology 別冊 超音波エキスパート 9末梢動脈疾患と超音波検査の進め方・評価-腹部大動脈・腎動脈・下肢動脈を中心に-/松尾汎(他編集)
 - ・EMERGENCY CARE 2009年新春増刊 保存版 救急医療 救急医・救急看護師・救急救命士 必須の知識と実際/太田宗夫(編著)
- 《DVD・ビデオ》・Audio-Visual Journal of JUA vol.15 No.1/日本泌尿器科学会(監修)

2008年度職員旅行

●常夏の楽園ハワイへ その6

四泊六日 (08.12.15 ~ 12.20) で



いっぱい楽しみました。名残りは尽きないけれど…ハワイ最後のさよなら夕食会で

2009年 1月の診療数	近森会グループ		企画情報室
	外来患者数	16,808人	
	新入院患者数	784人	
	退院患者数	695人	
	近森病院		
	平均在院日数	16.92日	
	地域医療支援病院紹介率	81.78%	
	救急車搬入件数	438件	
	うち入院件数	243件	
	手術件数	365件	
うち手術室実施	246件		
うち全身麻酔件数	147件		

編集室通信

▼先日、テレビ高知の深夜のローカルバラエティ番組出演のお誘いをいただき、仲間と一緒に出かけました。高知のものまね王座を決定するという企画だったのだが、似てるかどうかは二の次で、芸のおもしろさを競い合うような会になった。みんなのやりきりぶりに大笑い。いい大人たちがばかばかしいことに一生懸命になっている。時にはバカになるのも必要かもしれない。何だかとても勇気付けられた。(リンダ)

バレンタイン 献血の御礼

2009年2月13日

●風邪流行の昨今ですが、400ccを47人、200ccを26人、献血を希望して下さった方(取れなかったけれど)20人ものご協力をいただきました。厚く御礼申し上げます。



後期研修医4人でドライブ